

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
定時株主総会 毎年6月に開催します。
剰余金の配当の基準日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日
定時株主総会の基準日 3月31日
 その他必要があるときは、予め公告して基準日を定めます。

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵便物送付先 168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問い合わせ先 ☎ 0120-288-324 (フリーダイヤル)
受付時間は9:00~17:00 (土日祝日を除く)

特別口座に関する
事務取次所 みずほ証券株式会社本店および全国各支店
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
みずほ信託銀行株式会社本店および全国各支店

公告方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。
なお、電子公告によることができない事故その他
やむを得ない事由が生じたときは、大阪市において
発行する産業経済新聞に掲載いたします。
(ホームページ) <http://www.kurimoto.co.jp>

単元株式数 100株
上場証券取引所 東京証券取引所
証券コード 5602

■ 100株未満の株式をお持ちの株主様へ

当社の単元株式数(売買単位)は、100株です。
一方、単元未満株式(1~99株)につきましては、証券市場で売却することはできませんが、当社に対して買取を請求して売却できる制度をご利用いただけます。お手続き等の詳細は、お取引の証券会社もしくは、上記のみずほ信託銀行までお問い合わせください。

■ 株式に関するお問い合わせ先

- 証券会社に株式をお預けの株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金の受け取り方法の変更等、株式に関する各種お手続きは、お取引の証券会社にお問い合わせください。
- 証券会社に株式を預けておられない株主様の場合、当社がみずほ信託銀行に開設しております「特別口座」にて株式を管理しています。特別口座の株式は、単元未満株式の買取請求を除き売買できませんので、証券会社に株主様名義の口座を開設し、株式を振替されることをお勧めいたします。お手続き等の詳細は、特別口座の口座管理機関である、上記のみずほ信託銀行へお問い合わせください。
- 未払配当金のみ、みずほ銀行全国本支店でもお取扱いいたします。

ホームページで最新情報を即座に発信

<http://www.kurimoto.co.jp>



KURIMOTO REPORT 2020

<http://www.kurimoto.co.jp/csr/>



KURIMOTO

第125期

年次報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

株式会社 栗本鐵工所



CORPORATE MESSAGE

コーポレートメッセージ

モノづくりで未来を創る、 クリモト

クリモトは、1909年の創業以来、
お客様満足第一のモノづくりに徹して、社会のインフラ整備、
ライフラインや産業設備の拡充に貢献してきました。
これからも、110年で培った技術力にさらに磨きをかけ、
独自の技術と製品・サービスで社会の生命線と人々の暮らしを守り、
社会に貢献し続けたい。
そして、チャレンジ精神・創造力溢れるオンリーワン企業へ。
それが、クリモトの願いです。

CORPORATE PHILOSOPHY

企業理念

私達は水と大気と生命(いのち)の惑星、地球を大切にし、
人間社会のライフラインを守ります。

私達は「安心」という価値を提供し、
社会と顧客の信頼に応えます。

私達は顧客の声をよく聴き、顧客から学び、
独自の技術を深め、新しい技術を加え、
顧客にオリジナルな「最適システム」を提案します。

私達はモノづくりを通して、
社員の幸せと人間社会の幸せを目指します。

私達はこれらの実践のため、
コンプライアンス経営を徹底し、
継承と変革の調和を計り、個性と創意を尊重し、
企業の発展と社会への貢献に努めます。

CONTENTS

3	トップコミットメント
5	中期3ヵ年経営計画
8	事業の概況
9	事業部別営業品目の紹介
10	TOPICS
11	財務ハイライト
12	連結財務諸表
13	株式の状況
14	会社概要

表紙写真：熊本県 菊池溪谷
P1、P2写真：長野県 白馬「八方池」

/// ステークホルダーの皆様へ

「チームクリモト」として一丸となり、
チャレンジする組織風土を
醸成する。

株式会社 栗本鐵工所 代表取締役社長

菊本 一高



平素は当社グループの事業運営に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は1909年2月に鑄物技術を活用した水道用鑄鉄管製造をもとに創業して以来、快適で安心して暮らせる社会の実現のため、110余年にわたって社会のインフラ整備、ライフラインや産業設備の拡充に取り組んでまいりました。当社グループをお引き立て、ご愛顧いただいておりますステークホルダーの皆様には厚く御礼申し上げます。

さて、前中期3ヵ年経営計画の最終年度となった2020年度連結業績は、新型コロナ禍の影響があったものの、期初の業績予想値と比較いたしますと売上高、営業利益

ともに予想を上回る結果となり、前年度と比較しても増収増益を達成いたしました。また、前中期3ヵ年経営計画期間を通してみましても、右肩上がりの計画を着実に達成し、当初計画していた定量目標数値すべてを上回る業績をあげることができました。あらためて当社事業が新型コロナ禍でも必要とされるエッセンシャルワークとして社会から求められているものと確信した次第です。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡がり確認されてから1年以上が経過しましたが、未だ沈静化の目処が立たず、さらなる感染拡大が懸念される中で、当社グループを取り巻く事業環境にも徐々に影響ができております。セグメントによっては厳しい状況が続くなど

不透明感がさらに増してきております。

そのような新型コロナウイルス感染症の拡がり収束の兆しが見えない中ではありますが、当社グループではこの度、着実な持続的成長の道筋を付けるために2021年度からスタートする新中期3ヵ年経営計画を策定いたしました。国土強靱化やカーボンニュートラルに向けた長期的視点での社会からの要請は変わらないとの信念のもと、新中期3ヵ年経営計画では、既存事業のさらなる基盤強化を図るとともに、前中期3ヵ年経営計画期間にて芽吹いた新たな事業の成長を加速させてまいります。

また、この社会環境の変化を当社が抱える課題を解決する好機と捉え、業務改革によるニューノーマルへの適応、人材戦略推進に加え、SDGs、ESGを包括したCSR経営の推進により経営基盤の強化を図り、企業の持続的成長と収益性の改善を目指してまいります。

われわれ当社グループは、経営理念のもと「チームクリモト」として一丸となり、失敗を恐れるあまり何もしないのではなく、積極的に勇敢にチャレンジする組織風土をさらに醸成してまいります。そして、常にお客様にとっての最適なシステム(商材、仕組み、ノウハウ、サービス等の組み合わせ)を提供していくことで、「焦らず・力まず・諦めず」に人や社会にとってより良い未来を創造することを目指し、これまでも、そしてこれからも、当社グループは変わり続けてまいります。

経営理念

私たちは、全てのステークホルダーの
期待と信頼に応え、
常に最適なシステムを提供し、
『夢ある未来』を創造します。

配当について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最重要政策のひとつと位置付けており、安定的、継続的に配当を実施することを基本方針といたしております。この度、2021年3月期の業績および経営環境等を総合的に判断いたしました結果、2021年3月期の期末配当について1株当たり40円といたします。

長きにわたり、事業活動を継続できたことは、ひとえにステークホルダーの皆様のご指導、ご鞭撻の賜物です。

これからもより一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症により、亡くなられた方に謹んでお悔やみを申し上げます。また、罹患された方々とご家族の皆様に対し、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い回復をお祈り申し上げます。そして、感染拡大防止や治療などに日々ご尽力されている保健機関、医療従事者の皆様に、深く感謝申し上げます。

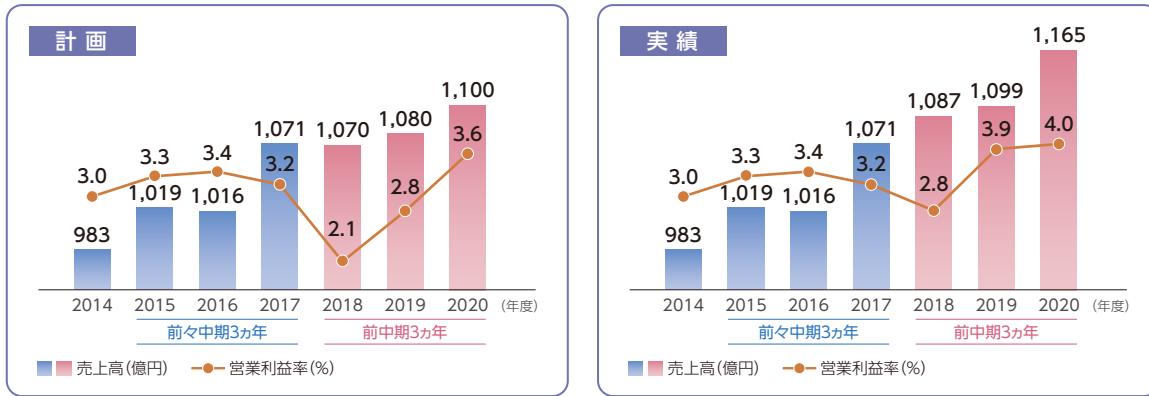
クリモグループが策定した新中期3ヵ年経営計画では、既存の事業基盤は堅持しつつ、前中期3ヵ年で境界線を越えた分野において、その先へさらに突き進み、事業拡大を加速させます。

前中期3ヵ年経営計画(2018~2020)のレビュー

● 計画と実績

最終年度(2020年度)の定量目標値を、当社グループ連結で売上高1,100億円、営業利益率3.6%、ROE4.0%とした前中期3ヵ年経営計画では、「私たちは全てのステークホルダーの期待と信頼に応え、常に最適なシステムを提供し、『夢ある未来』を創造します。」という新たな経営理念を掲げるとともに、「現有事業の境界線を見定め、ある領域ではそれを堅持し、ある領域ではそれを越えていく」をメインテーマとして取り組んでまいりました。

米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染拡大の影響による投資計画の延期、相次ぐ自然災害の影響による工事量減少などの影響はあったものの、官需分野での安定した収益に加えて、首都圏再開発などの大型案件や大型プラント案件の売り上げもあったことなどにより、計画期間中、全ての年度において、売上高、営業利益率とも、計画を達成することができました。



● 境界線を越えた新たな成果・取り組み

- パイプシステムセグメント** 管路DB案件や管体調査業務などソリューションビジネスの受注増加
- 機械システムセグメント** 粉体機器実験施設「機械技術センター」リニューアル
再生可能エネルギー分野での受注
- 産業建設資材セグメント** 道路・橋梁補修市場への新商材投入による事業拡大
- 研究開発・設備投資** SoftMRF®採用実績の増加
クリモコンポジットセンターの本格稼働

● 継続的課題

- 収益性** 前中期3ヵ年経営計画の利益目標は達成したものの依然として収益水準は低く、改善が急務
- 成長性** 設計、施工、メンテナンスなどを含めたシステム販売ビジネスのさらなる展開に向けた人材の育成・確保が必要
- 戦略的投資** 安定した財務基盤をもとにした持続的成長に向けた戦略的投資が必要

新中期3ヵ年経営計画(2021~2023)

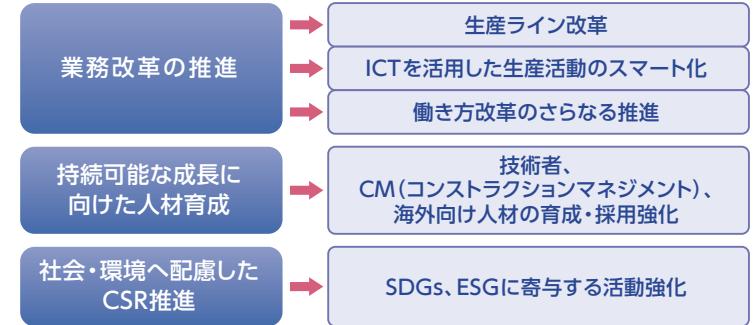
既存の事業基盤は堅持しつつ、前中期3ヵ年経営計画で境界線を越えた分野において、その先へさらに突き進み、事業拡大を加速させるべく、この度、新中期3ヵ年経営計画(2021~2023)を策定しました。

経営理念
私たちは、全てのステークホルダーの期待と信頼に応え、常に最適なシステムを提供し、『夢ある未来』を創造します。

● 新中期3ヵ年経営方針

業務改革によりニューノーマルへの順応を図るとともに、長期的な事業運営を視野に入れた体制を構築する

当社グループを取り巻く経営環境は、新型コロナウイルスの脅威により、大きく変化しております。そのような社会環境の変化に順応し、中長期的に持続可能な体制を構築し、事業拡大を目指します。



● 事業の方向性

① 国土強靱化の実現に向けて、最適なソリューションを提供

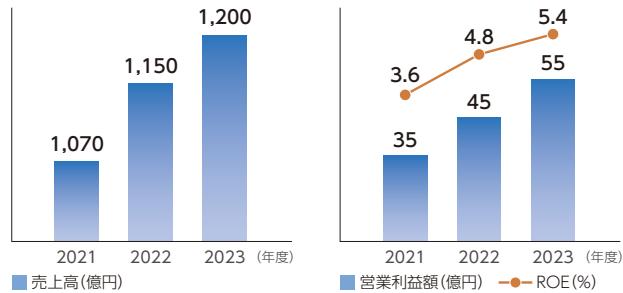
クリモが提供する価値	社会の動き
ライフラインを支える管路に向けた設計・施工・調査・メンテナンスなどのソリューション	上下水道 ●五か年加速化対策の推進(耐震化) ●設計施工一括発注増加 農業用水・工業用水 ●老朽管路の増加
高速道路・橋梁の維持管理・メンテナンスに貢献する新技術や施工などのソリューション	道路・橋梁・鉄道 ●道路構造物の老朽化 ●維持補修需要の急増

② 脱炭素社会の実現に向けて、最適なソリューションを提供

クリモトが提供する価値	社会の動き
再生可能エネルギー市場に向けた製品・ソリューション (バイオマス発電、小水力発電、水力発電、風力発電など)	エネルギー ●再生可能エネルギー関連事業の拡大
軽量化に寄与する高機能樹脂およびコンポジットの連続生産システム、コンポジット部材	移動体 ●軽量化・低燃費化に向けた軽量かつ高強度な素材の需要の増加 ●EV化に向けた世界規模での活動の加速
二次電池市場における連続的大量生産製造プロセスに向けた革新的技術	

● 業績目標

本計画では、2023年度に売上高1,200億円、営業利益55億円(営業利益率4.6%)、ROE(自己資本当期純利益率)5.4%達成を目指します。



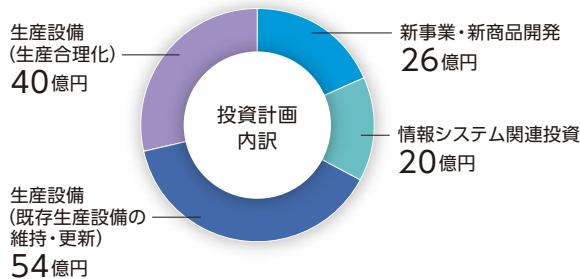
● 配当

成長投資とのバランスを鑑みつつ、金融市場の期待に応える株主還元を実施するべく、配当性向30%超を目指してまいります。

● 投資計画

当中期3カ年経営計画期間の営業キャッシュフローを元に、3カ年で140億円規模の投資を計画しております。

特に、持続的成長に向けた投資として、生産設備の合理化に40億円、新事業・新商品開発に26億円、IoT含めたシステム関連に20億円の投資を計画しております。



産業建設資材事業
292億円(25.1%)

機械システム事業
311億円(26.7%)



パイプシステム事業
561億円(48.2%)

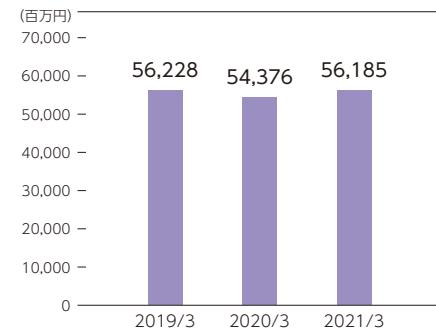
パイプシステム事業

売上高 **561億円**

「パイプシステム事業」は、売上高につきましては、鉄管部門で出荷量が増加したことに加え、バルブ部門でも民需向けで出荷が堅調に推移したことなどで、前連結会計年度比1,809百万円増収の56,185百万円となりました。

営業損益につきましては、鉄管部門、バルブ部門の増収に加え、各種原価改善に注力したことなどにより、前連結会計年度比749百万円増益の3,087百万円の利益となりました。

■ 売上高



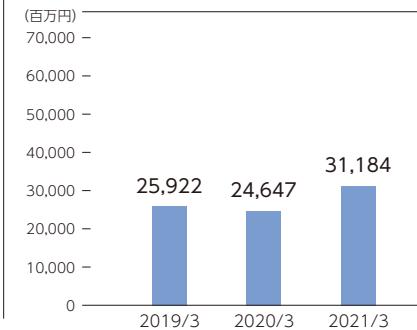
機械システム事業

売上高 **311億円**

「機械システム事業」は、売上高につきましては、機械部門で大型物件の出荷増に加え、大型工事進行基準物件の進捗が進んだことなどにより、前連結会計年度比6,537百万円増収の31,184百万円となりました。

営業損益につきましては、上記の通り増収ではありませんでしたが、機械部門の一部プラント案件において追加工事が発生したことなどにより、前連結会計年度比409百万円減益の610百万円の利益となりました。

■ 売上高



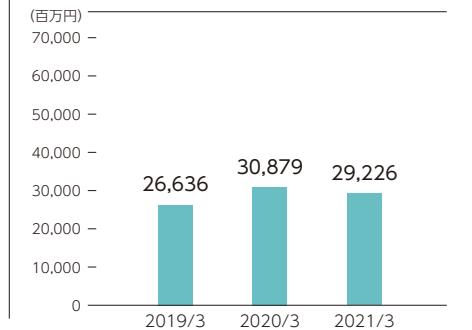
産業建設資材事業

売上高 **292億円**

「産業建設資材事業」は、売上高につきましては、化成品部門で電力向け、鉄道向け製品の出荷が堅調に推移しましたが、建材部門で建築工事の減少もあり空調製品を中心に出荷が減少したことなどで、前連結会計年度比1,653百万円減収の29,226百万円となりました。

営業損益につきましては、化成品部門での増収に加え、各種原価改善に努めましたが、建材部門の減収の影響が大きく、前連結会計年度比197百万円減益の1,074百万円の利益となりました。

■ 売上高



(2021年4月1日現在)

ライフライン事業

パイプシステム事業部



人々の暮らしを地下で支える水道管やガス管。身近な暮らしの場面から大きな役割を担うこれらのダクタイル鉄管は、大都市・郊外・農村などあらゆる所で活躍しております。

● 営業品目

ダクタイル鉄管(直管、異形管、接合部品)、耐摩耗管、管路の設計、施工、施工監理業務および管路調査、点検等の維持管理業務

バルブシステム事業部



浄水場などの官需分野から、発電所・製鉄所・プラントなどの民需分野、海外向けのバルブを多数取り扱っております。

● 営業品目

パタフライ弁、ソフトシール仕切弁、スリーブ弁、火力・水力発電設備用バルブ、貯水槽用緊急遮断弁、各種調整弁、高炉用弁類、スプリンクラー用予作動式(負圧湿式)流水検知装置

機械システム事業

機械システム事業部



さまざまな産業の生産ラインを支える産業機械設備は各種製品を世に送り出す一翼を担っています。また、単体設備からトータルエンジニアリングまで、幅広く社会に貢献してまいります。

● 営業品目

微粉砕機、分級機、造粒機、乾燥機、焼成機、混合・混練・分散機、反応機、溶剤回収装置、二次電池材料製造装置、各種産業機械、試験機械、プラントおよびシステム設備、鍛造プレス、ベンディングロール、鍛圧機各種周辺装置、プラントエンジニアリング事業/各種プラントの設計、製作、調達、建設、試運転およびメンテナンス

素形材エンジニアリング事業部



破砕技術・材料技術を有する素形材エンジニアリング事業部の商品群は、骨材資源業界、鉄鋼業界、電力業界、セメント業界、鉄道運輸業界を網羅して各種産業分野で活躍しております。

● 営業品目

破砕機、粉砕機、分級機、搬送機械、耐摩耗鋳物、耐熱鋳物、耐摩耗ポンプ、鉄道用ブレーキディスク、ブレーキライニング、(英) TEREXFINLAY商品

産業建設資材事業

建材事業部



幅広い製品ラインナップと迅速なデリバリーで皆様の期待にお応えしております。

● 営業品目

スパイラルダクト、各種フレキシブルダクト、サイレントフレックス、各種消音製品、ステンレスダクト、スーパーパイラル、プレミアムスパイラルダクト、コルエアダクト(段ボール製ダクト)、ワインディングシース、ポリエチレンシース、ワインディングパイプ、梁貫通孔補強筋(スーパーハリー Z)、中空スラブ、各種耐震製品、ハーフプレキャスト製品(カイザースラブ・カイザーバルコニー)、PCaシステム階段、消音・騒音対策事業(測定・設計・製作・施工・確認)、透光型吸音パネル(ビューゾーン)

化成品事業部



FRPが持つ多機能で自由度の高い特性を活かし、真に信頼される製品づくりを目指して、広く社会基盤の整備に貢献してまいります。

● 営業品目

強化プラスチック複合管(FRPM管)、強化プラスチック管(FRP管)、強化プラスチック複合板(FRPM板)、FRPコア、FRP引抜成形品、各種合成樹脂成形品

TOPICS

1 「健康経営優良法人2021(大規模法人部門)」認定



健康経営優良法人制度は、経済産業省が創設した健康経営の顕彰制度で、地域の健康課題に即した取り組みや日本健康会議が進める健康増進活動をもとに、従業員の健康に特に配慮した経営を実践している法人を顕彰するものです。

今後も従業員一人ひとりの健康維持と快適な職場環境の整備を最優先課題のひとつと捉え、クリモト健康経営方針に則り、より良い事業運営に努めてまいります。

TOPICS

2 クリモトブランド展開

テレビ東京系列の企業紹介番組

『知られざるガリバー ～エクセレントカンパニーファイル～』にて、
当社の事業内容が紹介されました

当社代表(放送当時)へのインタビューをはじめ、主力製品のひとつである連続式二軸混練機(KRCニーダ)や当社が日本初のメーカーである空調用スパイラルダクトなどが紹介されました。



日本一有名なラジオ番組「オールナイトニッポン」でCMをはじめました

オールナイトニッポン

● 月曜～土曜 25:00～27:00
ニッポン放送ほか全国36局ネット

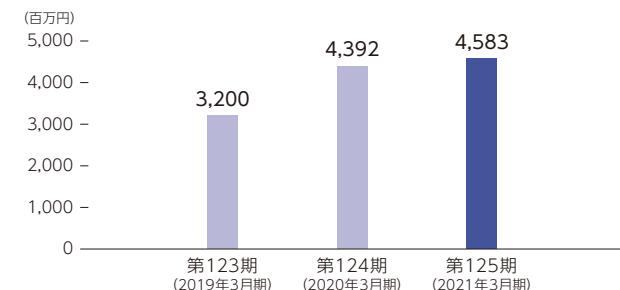
ラジオ人気急激に高まっていることを受けて、「オールナイトニッポン」への協賛をはじめました。クリモトCMが流れるのは、菅田将暉さんがパーソナリティーを務める月曜日とナインティナインさんがパーソナリティーを務める木曜日です。スマートフォンアプリ「radiko」などでは、いつでも聴くことができます。

※ なお、パイプシステム事業はライフライン事業、鉄管事業部はパイプシステム事業部、バルブ事業部はバルブシステム事業部へ、2021年4月より名称変更しております。

■ 売上高



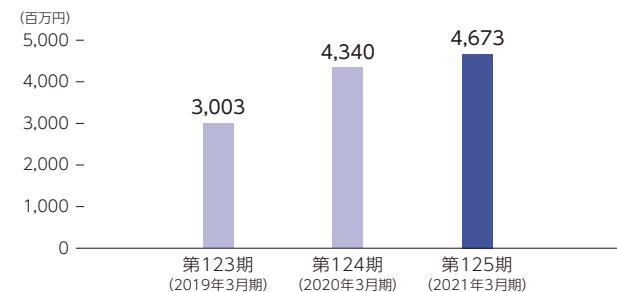
■ 経常利益



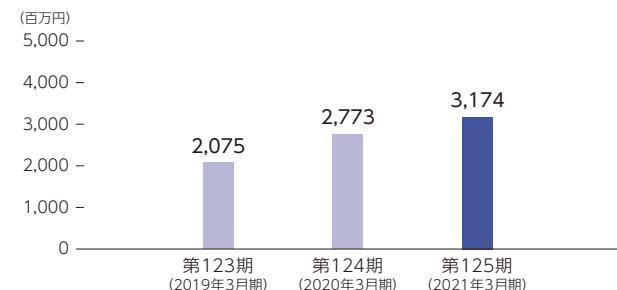
■ 1株当たり当期純利益



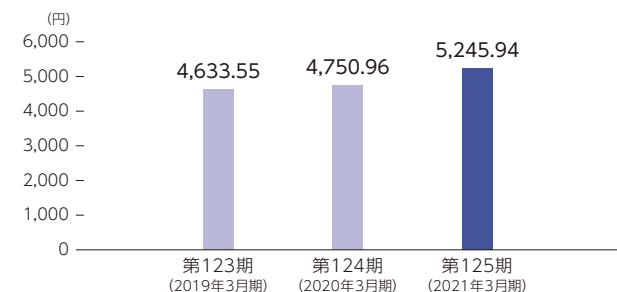
■ 営業利益



■ 親会社株主に帰属する当期純利益



■ 1株当たり純資産額



■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2021年3月31日現在	2020年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	82,634	84,669
固定資産	51,843	49,546
有形固定資産	32,886	32,867
無形固定資産	1,852	1,400
投資その他の資産	17,103	15,279
資産合計	134,477	134,216
(負債の部)		
流動負債	57,543	63,325
固定負債	11,822	12,013
負債合計	69,366	75,339
(純資産の部)		
株主資本	61,271	58,816
資本金	31,186	31,186
資本剰余金	6,873	6,873
利益剰余金	25,028	22,587
自己株式	△ 1,817	△ 1,831
その他の包括利益累計額	2,695	△ 923
その他有価証券評価差額金	3,306	771
為替換算調整勘定	△ 52	△ 4
退職給付に係る調整累計額	△ 558	△ 1,690
非支配株主持分	1,144	984
純資産合計	65,111	58,876
負債・純資産合計	134,477	134,216

■ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2020年4月1日から2021年3月31日まで	2019年4月1日から2020年3月31日まで
売上高	116,596	109,904
売上原価	90,582	83,786
売上総利益	26,014	26,117
販売費及び一般管理費	21,341	21,777
営業利益	4,673	4,340
営業外収益	622	576
営業外費用	711	524
経常利益	4,583	4,392
特別利益	18	531
特別損失	63	908
税金等調整前当期純利益	4,538	4,014
法人税、住民税及び事業税	1,174	1,389
法人税等調整額	13	△ 113
法人税等合計	1,188	1,275
当期純利益	3,350	2,739
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失(△)	176	△ 34
親会社株主に帰属する当期純利益	3,174	2,773

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2020年4月1日から2021年3月31日まで	2019年4月1日から2020年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,907	5,552
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,034	△ 3,951
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,815	△ 2,769
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 28	△ 8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	28	△ 1,177
現金及び現金同等物の期首残高	20,330	21,507
現金及び現金同等物の期末残高	20,359	20,330

■ 株式の状況

(2021年3月31日現在)

発行可能株式総数	39,376,600株
発行済株式の総数	13,098,490株
単元株式数	100株
株主数	7,508名

■ 大株主(上位10名)

(2021年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
太陽生命保険株式会社	1,209	9.8
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	798	6.5
日本生命保険相互会社	678	5.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	588	4.8
株式会社りそな銀行	444	3.6
株式会社みずほ銀行	362	2.9
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 株式会社日本カストディ銀行	320	2.6
岩谷産業株式会社	289	2.3
株式会社三井住友銀行	272	2.2
デイエフエイ インターナショナル スモール キャップ バリュウ ポートフォリオ	208	1.7

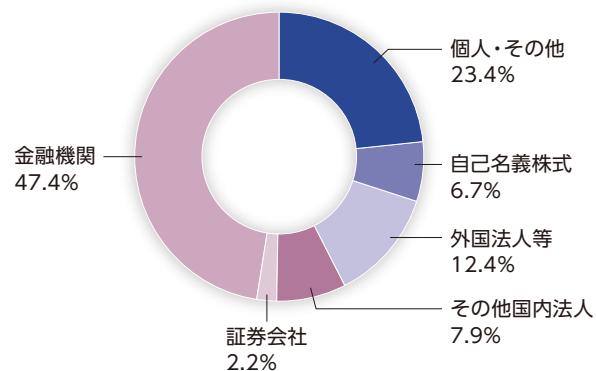
※1 当社は自己株式(880,194株)を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

※2 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

※3 自己株式には、株式給付信託(BBT)の信託財産として株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が保有する当社株式24,772株は含んでおりません。

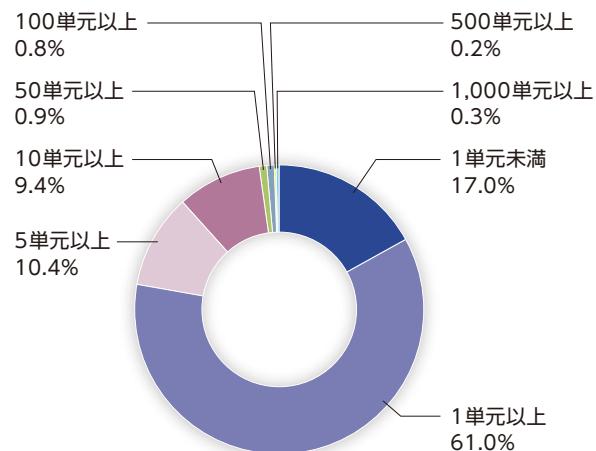
■ 所有者別株式分布状況

(2021年3月31日現在)



■ 所有株式数別株主分布状況

(2021年3月31日現在)



■ 会社の概要

(2021年3月31日現在)

社名	株式会社 栗本鐵工所
英文社名	Kurimoto, Ltd.
創立	1909年2月2日
設立	1934年5月10日
資本金	31,186,098,159円
従業員数	1,342名(単体) 2,113名(連結)

■ 役員

(2021年6月25日現在)

代表取締役社長	菊本 一高
取締役会長	串田 守可
取締役専務執行役員	岡田 博文
取締役常務執行役員	屋地 幹生
取締役上席執行役員	新宮 良明
取締役上席執行役員	織田 晃敏
社外取締役	近藤 慶子
社外取締役	佐藤 友彦
常勤監査役	村田 実
社外監査役	有田 真紀
社外監査役	本多 修
上席執行役員	小島 眞也
上席執行役員	吉永 泰治
上席執行役員	浦地 好博
執行役員	福井 武久
執行役員	上田 高生
執行役員	野口 安次
執行役員	丸谷 等
執行役員	廖 金孫
執行役員	美濃 雅信
執行役員	佐野 康雄
執行役員	田淵 泰志
執行役員	藤本 容志

■ クリモグループ

国内関係会社

- 栗本商事株式会社
- ヤマトガワ株式会社
- 北海道管材株式会社
- クリモロジスティクス株式会社
- クリモパイプエンジニアリング株式会社
- 株式会社本山製作所
- 株式会社ケイエステック
- 八洲化工機株式会社
- ジャパンキャストリング株式会社
- 日本カイザー株式会社
- 株式会社ゼンテック
- クリモポリマー株式会社
- 株式会社クリモビジネスアソシエイツ

海外関係会社

- 栗光股份有限公司
- 栗鉄(上海)貿易有限公司
- Readco Kurimoto, LLC
- Kurimoto USA, Inc.